

トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 防除対策を徹底しましょう

こんな症状・虫に注意！！



タバココナジラミ類は薬剤だけでは防除できません。



(社) 宮崎県植物防疫協会

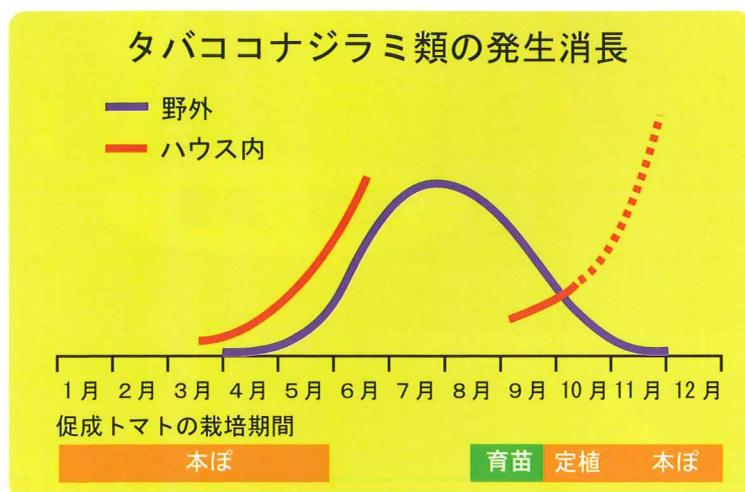
宮崎県監修

トマト黄化葉巻病（TYLCV）とタバココナジラミ（バイオタイプQ）の防除対策

防除の基本的考え方

タバココナジラミの成虫は、通常14～30日間生存し、その間に数百個の卵を産みます。一度侵入すると施設内では急激に増加しますので、野外の生息数の多い育苗期～定植期（7～10月）に、施設内への飛び込みを防止することが極めて重要です。真冬には野外から飛び込みはなくなるので、この時期の防除が年間の発生を左右します。

成虫は羽化後2～3日目から産卵し、卵は7～10日間で孵化し、1～3齢幼虫まで9～10日間、4齢幼虫（蛹）6日間を経て成虫に羽化します（表紙参照）。



したがって、まず、成虫を防除して産卵を阻止し、さらに孵化していく幼虫を防除してトドメを刺すことが大切です。卵を防除できる農薬はないので、最初の防除で確実に成虫を駆除することがポイントです。
(成虫が生き残ると産卵が続くので悪循環になります。)

また、春以後は、施設から飛び出した個体が、野外で増殖し、露地作や次作を加害する元になりますので施設から飛び出さない対策が必要です。

主要な防除技術

I 物理的防除

- 0.4mm目以下の防虫ネットを設置し、ハウス外からの飛び込みを防ぎます。
サイドだけでなく、天窓・肩換気部・出入口等に隙間がないよう設置しましょう。
- 黄色粘着板（テープ）を設置し、捕殺と侵入状況の確認を行います。

II 耕種的防除

- タバココナジラミの繁殖源になるハウス内外の雑草・野良トマトは、徹底して除草しましょう。（野良トマトは伝染源にもなりますので、厳に処分します。）
- 感染株が見つかったら、根から掘り上げてビニール袋等に密閉（保毒したタバココナジラミの拡散を防ぎます）して施設外へ持ち出し、土中深く埋設するなどして処分します。
- 整枝した茎葉等もビニール等で被覆し、目に見えない卵や孵化幼虫を駆除します。
- 栽培終了後は、蒸し込みを行い、ハウス内のタバココナジラミを死滅させ、野外への飛び出しを防ぎます。

III 化学的防除

- 育苗期、栽培初期～加温開始期の防除が、トマト黄化葉巻病を抑える上で重要です。
- 育苗～定植初期は、化学農薬の散布・粒剤の施用により防除に努めましょう。
- 活着期以降は、抵抗性のつかない昆虫寄生菌や気門封鎖型の農薬も活用して防除しましょう。（化学農薬のみに頼る防除は抵抗性を高めることにつながります。）

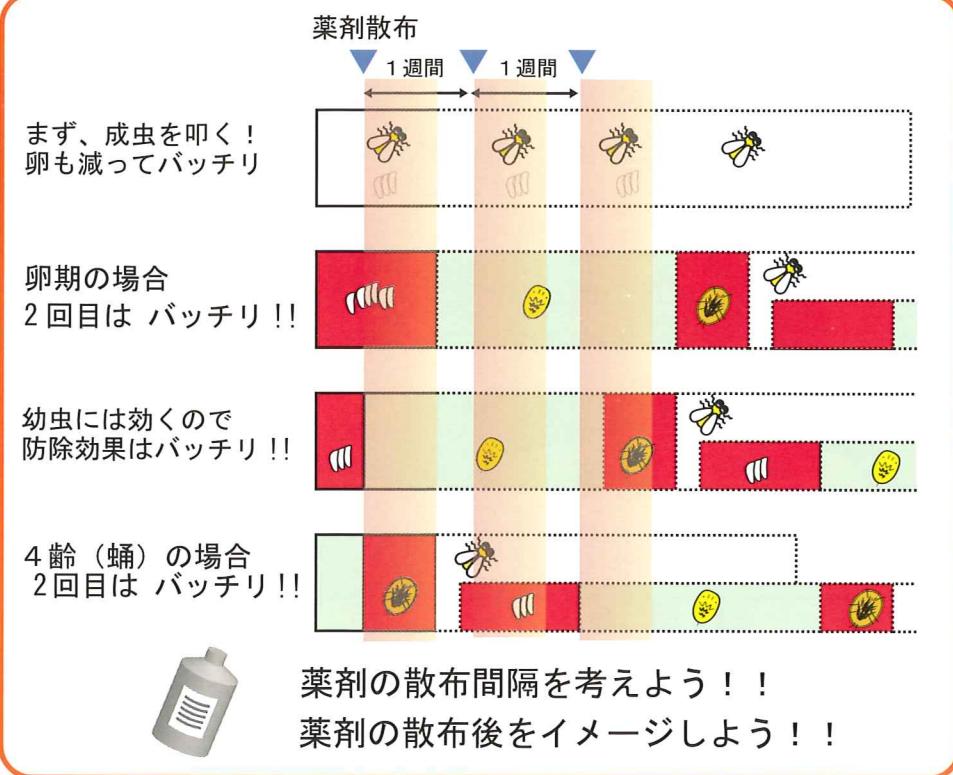
薬剤防除のポイント

ポイント①

基本は1週間おきに3回防除！
最低でも、2週間おきに2回は必須です。

タバココナジラミの生態に応じた防除作業を行うことが重要です。

様々な生育ステージが混ざり合った状況では、1回の防除では防除効果が期待できない時期（卵、4齢幼虫（蛹））に当たってしまうことがあります。タバココナジラミの場合、約2週間後に再度防除を行うことによって、その隙間を埋めることができます。



ポイント②

コナジラミが見えなくてもスケジュール散布！

初期重点防除対策の一つとして、総合農業試験場で研究している防除方法があります。定植後にまず「スタークル（アルバリン）」、「ベストガード」、「サンマイト」等の効果が持続している化学農薬で徹底防除してタバココナジラミの密度を十分に下げた後、下記散布パターンで非化学農薬による連続した防除を行います。

タバココナジラミが目に見えなくとも実施しましょう。労力が増大するように思えますが、初期に徹底して防除を行うことで、その後（年内～春先）の防除労力が軽減され、黄化葉巻病の感染・蔓延防止が図れます。

農薬抵抗性を発達させずに効果のある化学農薬を温存することもでき、また、散布パターンに化学農薬を組み入れることで防除効果を上げることも可能です。

基本パターンの繰り返し

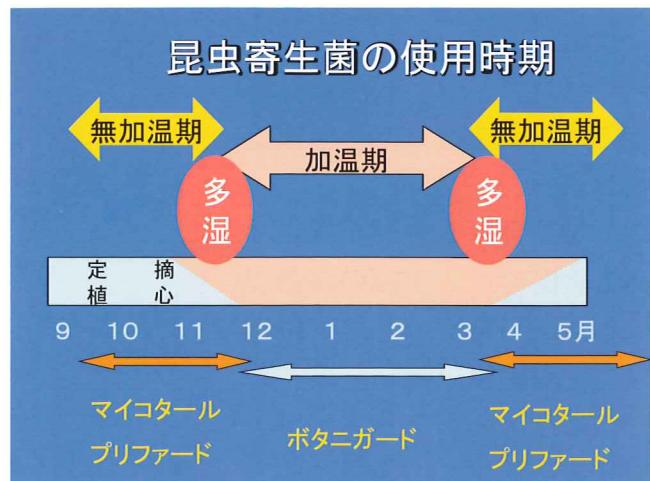


ポイント③ 昆虫寄生菌（微生物農薬）を上手に使おう！

昆虫寄生菌と化学農薬を混合散布すると、防除効果が高まることが分かってきています。
(混用不可の農薬は薬害や薬効低下につながりますので確認しましょう。)

昆虫寄生菌利用上のポイント

- 散布前に水においておきますが、水道水の場合は注意が必要です。(塩素が影響しますので、水道水は汲み置きしたものを使います。)
- 展着剤を加用することで、菌の拡散が良くなります。(所定濃度を超える展着剤の加用は悪影響があります。)
- 右図のように、剤によって効果的な使用時期がありますので、効果の期待できる時期に使用しましょう。(乾燥に強いボタニガード以外は湿度の高い無加温期に。)



県関係機関連絡先

機 関 名	電 話 番 号
宮崎県病害虫防除・肥料検査センター	TEL (0985) 73-6670
宮崎県総合農業試験場（生物環境部）	TEL (0985) 73-6448
中部農業改良普及センター	TEL (0985) 30-6121
南那珂農業改良普及センター	TEL (0987) 21-9550
北諸県農業改良普及センター	TEL (0986) 38-1554
西諸県農業改良普及センター	TEL (0984) 23-5105
児湯農業改良普及センター	TEL (0983) 43-2311
東臼杵南部農業改良普及センター	TEL (0982) 68-3100
東臼杵北部農業改良普及センター	TEL (0982) 32-3216
西臼杵農業改良普及センター	TEL (0982) 72-2158

薬剤散布を安全に行うためのポイント

- 農薬は、ラベルの記載内容に従って使用しましょう
- 農薬散布する周辺への周知を行いましょう
- 散布しようとする作物以外に農薬がかからないよう注意しましょう
- 農薬散布後は、器具を十分に洗浄しましょう
- 農薬の使用履歴を記録し保管しましょう